

戦後アラビア石油株式会社を興し、石油開発によって我が国の発展に寄与した山下太郎は、生前、郷里である秋田県大森町(現横手市)に対して、大正15年(1926)から20年間に亘り奨学資金を寄付していますが、それ以外にも、洋館2階建ての文化施設や高校の建設資金などを贈っています。また、母校の北海道大学には、「山下生化学研究所」を寄贈するなど、教育への振興にも情熱を注ぎました。



当育英会は、山下太郎亡き後、その遺志を継いだ妻の文子が平成元年(1989)に設立したのですが、社会有用な人材育成と青少年教育の振興を目的として、向学心に燃える学徒への奨学援助と研究者への助成などを行っています。これまでに400名を超える学生が当育英会の奨学金を活用し、研究助成では約150件の業績に対して資金を提供しています。

新型コロナウイルス感染症の流行から2年余り、ここにきて規制緩和の方針が政府から示されましたが、未だ収束には至っていません。これに加え、今年2月には、ロシアによる隣国ウクライナへの侵略が開始され、世界に衝撃を与えました。世界経済フォーラムは、気候変動などの環境リスク、新型コロナウイルス等の感染症リスク、そして今般のロシアによるウクライナ侵略等の地政学的リスクなど、数多くのリスクが存在すると公表しています。解決には、ほど遠い問題が世界中にあふれており、混沌とした状態になっています。

このような変化の時代に、当育英会では、設立者である山下文子が示した設立趣意書の理念を礎にしながら、人材育成の一翼を担うべく今後も努力して参りますので、皆様のご指導とご支援をお願い申し上げます。

令和4年5月

一般財団法人山下太郎顕彰育英会

理事長 山下和男